（別紙4）　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2692700046		
法人名	社会福祉法人大樹会		
事業所名	やすらぎ苑しょうちゃんの家		
所在地	京都府舞鶴市字安岡小字中山1076		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700046&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530－0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者と職員が共に家族のように、日々の生活を楽しみながら過ごす事を目標にしている。地域に開かれた事業所として地域に出向く機会を多く作り出掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームは木のぬくもりと土壁、障子、掘りごたつなど昔懐かしい雰囲気を大切にしながら天窓や床暖房を施し、暮らし良さを実現しています。職員は理念に基づき、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係を断つことなく、日々の買物や個別外出を通じて継続できるような生活を支援しています。利用者と職員が一緒に行う食事作り以外にも梅干しや味噌を作ったり、畑で野菜を育てたりすることが楽しみに繋がっています。ホームも含む法人の取り組みとして、施設長へ直接送られる意見書や上司を評価するアンケートを通じ、職員の意見を積極的に取り入れています。また利用者や家族からの苦情や要望とそれに対する対応を、定期的に広報誌に掲載し公表するなど、改善に向けた前向きな姿勢が伺えます。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度の指導により地域密着としての理念を作り、日々のケアに活かし実践している。	昨年の外部評価後に職員間で話し合い、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作り上げている。理念は利用者に清書してもらい、ホームの各所に掲示している。毎日の朝礼で全員で唱和し、確認し合ってからケアに入るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域の行事に出掛けたり、法人や事業所の行事を回覧で地域に知らせて参加してもらっている。場所的な事も有り日常的な交流には至っていない。	回覧板から情報を得て、地域の運動会や敬老会に参加している。法人主催の行事には地域の方を招待し園児の来訪時には、利用者も一緒に参加している。またホームでも餅つき大会を開催し、回覧板を通じて地域や家族に案内し参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月１回発行の機関誌を町内に回覧で回してもらい、認知症に対する理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催して活動報告を行ない、そこでの意見をサービス向上につなげている。	運営推進会議は2ヶ月毎に家族や市職員、町会長、民生委員、施設長、職員等参加者や日時を固定して開催されている。会議ではホームから行事や活動の報告がなされる他、参加者から地域の情報を得たり、避難訓練の進め方について話し合うなど活発な意見交換の場となっている。	運営推進会議はテーマを決めて参加者を募ったり、利用者や消防関係者等に参加してもらうなど、多くの意見や情報を得て運営に反映されることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい日頃の取り組みを伝え、必要時には連絡を取り協力関係を築いている。スピード注意の看板をもらい設置した。	市職員の運営推進会議への参加もあり、市からホームに見学に来られることもある。また市に働きかけホーム前の道路に徐行を呼びかける道路標識の設置をお願いするなど、何かあれば訪問したり電話で相談し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関は開いており、自室も自由に外に出られる状態である。身体拘束は行なっていない。身体拘束について内外の研修において学んでいる。	ホームでは日中は一切施錠せず、廊下や居室は吐き出し窓になっているが、自由に出入りが出来るようになっている。職員は研修等でも理解を深め、身体拘束をしないケアを実践し、利用者は出かけたい時に自由に散歩に出かけたり、敷地内で草抜きをしたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修で虐待について学び防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者1名は成年後見人制度を利用しており、定期的に行政書士が訪問されている。制度について理解している職員が分かっている範囲で説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、入所後も契約に関する不安な事や疑問点を聞き、説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施してその結果を機関紙で公表して意見、要望を表せる機会を設けている。また、意見受付箱を常設している。	家族の面会時には、利用者のホームでの様子を伝えると共に、家族からの意見や要望を聞くように努めている。法人でも満足度調査を実施し、毎月発行する広報誌やホームの季刊誌で検討結果を報告している。年に一度、家族交流会を開催し、家族同士が交流する機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会議、各職員からの施設長への要望書、人事考課表の記入により意見を聴く機会は多く有り、また反映する体制がある。	毎月全員が参加する職員会議において、職員からの意見をもとに検討し、運営に反映させている。また法人の施設長宛てに直接個々の要望や意見を書面で送ったり、各職員が行う上司評価アンケートを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や、施設長への要望書等で把握して、多くの研修の機会やリフレッシュ休暇などを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は多く有り、各職員のレベル（経歴等）に合った研修に参加してもらっている。また良いチームワークを作ることで新人の育成につながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府内や市内のグループホーム連絡会に加盟してして研修会に参加している。職員交換研修を行った。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問や施設見学時に本人の思いや意向を聴き不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望をしっかり聞き、信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一の他法人事業所の紹介や他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝のミーティングで理念を唱和し、本人の持っている力を見極め、寄り添い、共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に家族と連絡を取り、本人の状態を報告して信頼関係を築き、家族にしかできない支援を理解してもらい協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する機会を多く設け、近所や馴染みの人とのふれあいを大切にして、本人の行きたい所（生まれ故郷等）へ出掛けている。	馴染みのスーパーでの買い物や美容院へ出かけたり、以前から利用している病院への通院を支援している。また、訪ねて来てくれる人もおり、知人とおしゃべりを楽しむこともある、。ホームでは家族への便りを定期的に出し、その際には利用者が手書きで家族に向けての思いを書いて送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で一人ひとりが自分らしさを出してもらえる様に、職員が間に立ち、良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も見舞いに行き、今後の相談にのっている。（死亡された為、葬式に参加）		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話す機会を設けたり、利用者同士の会話から垣間見えること等を把握し、希望に添える様努めている。	自己主張や自己決定出来る利用者も多く、日々の会話の中から希望や思いを聞き取っている。入居前には自宅を訪問して生活環境や習慣を把握したり、家族から聞いたりしている。得た情報をもとにセンター方式を用いてアセスメントを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で情報を読み、自宅訪問や本人、家族から情報を得てこれまでの暮らしを把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングで前日の様子の報告を行ない、本人の心身状態の把握に努めている。毎日、日誌に様子を記録している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者及び家族の意向を確認し、職員全員でセンター方式のアセスメントを行ない、それをもとに介護計画を作成している。	アセスメントを基に、毎朝のミーティングや毎月行われる全員参加のカンファレンスの中で、意見を出し合いケアプランを作成している。またプランは3ヶ月毎にモニタリングや評価、担当者会議を開催して見直しを行っている。状態に変化が見られる場合にはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をｹｰｽ記録に残し、毎朝のミーティングで報告し情報の共有を図り、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設で行われているクラブに参加したり、散歩や買い物、ドライブ等、その時にある利用者の要望に添っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の参観に出掛けたり、地域の行事に参加したり、ボランティアの受け入れ等行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回かかりつけ医の往診がある。また状況に応じて他の医療機関への受診を行なうなど、医療機関との連携は出来ている。	入居時に家族と相談し、かかりつけ医を決めている。協力医とは週2回の往診の他、24時間連携体制が整っており、定期訪問や健康診断があることを説明し全員が希望して協力医を主治医としている。専門医への通院は家族にお願いしている。日々の健康管理はホームの看護師が行い、また緊急対応マニュアルを作成し、夜間や緊急時に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師がバイタルチェックを行なっており、週2回は主治医と共に顔なじみの看護師の訪問を受けている。月1回の会議にも看護職員が参加して情報交換を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時まめに面会に行き、主に担当看護師と情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、終末期対応の方針を決め、家族に説明を行ない、同意書をもらっている。	職員間で話し合い、「看取り、終末期対応に関する同意書」を作成し、入居時に説明してサインをもらっている。時期が来れば再確認を行い、家族の希望に沿って関係者で話し合い、協力医や看護師と連携のもと支援していく体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間や緊急時でも対応できるように緊急連絡網や看護師の緊急連絡対応も出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同避難訓練を行なっている。また消防設備の点検を受け安全に努めている。今後地元の消防団との合同訓練を行いたい。	年に2回、法人として昼夜想定して避難訓練を行っている。消防署の指導を受けたり、独自でも避難訓練を予定しており、防火責任者の講習にも参加する予定である。	運営推進会議で地域の方に協力をお願いしながら、一緒に避難訓練に参加してもらうなど協力が得られる体制作りが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては使用に係る同意書にもとずき保護している。入浴は個浴であり、トイレや自室には鍵がついている。言葉づかいも誇りを傷つけない様努めている。	利用者の希望に沿って同姓介助を行ったり、丁寧な言葉かけや対応を心がけるよう伝えている。管理者は職員に対し、「自分の親がそう呼ばれたらどう思うか」を問いかけ、不用意な言動を目にした場合はその都度注意している。個人の書類は事務所の書庫に適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き出す事に努め、自己決定を尊重している。決めにくい事があれば、選択肢を設け選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着てもらったり、好きな美容院に付き添ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や買い物、調理、食事準備等、利用者と共に行ない、利用者の好みや出来る事の支援ができている。	その日の担当職員が利用者の希望を聞いて献立を立てている。一緒に買物に出かけ、利用者に食材を選んでもらっている。包丁を使って下ごしらえをしたり、調理や後片付け等も一緒に行っている。畑の野菜が食卓に上り、利用者や職員が共に味わう食卓は、話題が豊富で賑やかな食事風景が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録により食事摂取量や水分量を把握しており、個々の好みに応じた支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行なってみたが利用者から批判の声が聞かれ取り止めた。就寝前のケアはできている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その時の状態に応じた対応を行なっている。トイレの掃除もこまめに行い気持ちよく使用してもらえるようにしている。	自立の利用者も多いが、個々に応じてさりげなく声をかけトイレでの排泄を支援している。失禁が見られる場合も、他の利用者にわからない様に風呂場に誘導し、シャワー等で対応している。夜間は無理にトイレ誘導せず、ポータブルトイレを利用するなど、身体機能に合わせた対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操などの運動や水分摂取の声掛け、食物繊維の豊富な食材、乳製品等を使った食事の提供に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴してもらえる様にしている。その上で本人の意向やタイミングを大切にして入浴を楽しんでもらえるよう努めている。	午後から夕方に入浴して頂いているが、希望があれば朝や夜間の入浴も可能で、毎日入浴されている利用者もいる。拒否が見られる場合にはタイミングを図り誘導するなど工夫しながら二日に一度は入浴している。入浴剤を利用したり、音楽を流すなど入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが好きな時間に休息出来るよう、その都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病名や薬、薬の目的や副作用を書いた表を薬箱の横に貼り、職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、また対話の中から本人の楽しみを見つけ出し、期待に添える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物は行きたい人が行き、散歩や、同敷地内施設や地域の行事参加など、外出の機会を多く設けている。生まれ故郷への外出も行っている。	毎日の食材や嗜好品の買物、天気の良い日は散歩に出かけている。誕生日には職員と一緒に墓参りや温泉、外食等希望に応じた個別外出の支援を行っている。また近々、家族の了承を得て1泊旅行を予定しており、恒例の行事として続ける予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、本人の欲しいものを買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、事業所の電話の子機を使い掛けてもらっている。3ヶ月に1回の家族あての事業所便りには本人に手紙を書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節に合わせたかざりつけをしている。照明も利用者の好みに合わせている。	梁を残し天窓や吐き出し窓は、外の光と空気を十分に室内に取り入れることが出来る造りとなっている。木のぬくもりを大切にし、障子や土壁、欄間を設け、畳スペースには掘りごたつを施し、懐かしさを演出している。散歩時に集めた草花をトイレや洗面所、テーブルに飾り、畑や敷地内の木々からも季節を感じることが出来ている。家族が来訪時に談笑する場所やソファーや椅子を各所に設け寛いだり一人になれる場所を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の他に人目のつかない場所にもソファーがあり、思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込んでもらい、本人の好みや使いやすさでレイアウトして居心地良く過ごしてもらっている。	洗面所と押入れが設置された居室は昔懐かしい土壁で障子が施されている。ドアは幅広の引き戸で、車椅子での出入りも可能で、吐き出し窓となっており自由に外に出ることが出来る。利用者はベッドやタンス、テレビ、ソファー、アルバム等馴染みの品を持参され、居心地良く過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握した上で、手すりは要所にだけ設け、トイレやふろ場の場所も表示していない。		